

### 第3回大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会会議概要

日時：平成26年3月19日（水）午前10時～12時

場所：市役所屋上階共通会議室

#### 【議題1 発達障がい者支援センター事業実施状況について】

- ・私立保育園への巡回相談での課題は、事前に保護者に了解を得ているケースもあるが、そうでなく、訪問してその場で相談に上がってくることがある。また、毎年、相談が上がってくる保育所もあり、同様なケースには応用するよう保育所を指導していかなければならない。
- ・定型発達のこどもとの間で発生する問題への対処や工夫については、友達好きだけど、仲良くなり方がわからないという問題については先生が間に入ってもらうことにしている。グループがどれくらい落ち着いているかが、指導内容の反映に左右する。園の中で先生達が共通理解してもらうのに時間がかかる。
- ・青年成人期の支援機関については、生活介護とか、高機能の方が利用されている就労移行支援事業所、精神障がい者支援事業所と様々である。
- ・相談者割合で学齢期が31%というのは、学校とコミュニケーションが取れないとか、進学や就労の相談をどんなふうにしたらいいのかという保護者からの相談が多い。

#### 【議題2 発達障がい者就業支援コーディネーター事業実施状況について】

- ・新規相談者には、自分にあった就労移行支援事業所を決めるのは難しく、当事者や家族だけで見学に行き、自分に合わないと感じても断ることができなかつたりする。比較して決めて良いということを伝えていくことが必要。
- ・就職後の継続支援が長期になる場合がある。
- ・支援の具体的な方法のマニュアルは作成している。会社の中で役割を確立させて、本人が安心して働ける環境を作ってもらうが、変化が生じた時にはその都度、対応している。
- ・就労支援の長期化は、職場の問題というよりは、家族が倒れたとか年金申請したいとか生活の中での変化があるので、相談にのっている。
- ・それをコーディネーターがするのではなく、企業の担当者が出来るよう支援しないといけない。企業を支援する方法を考えていくこと。
- ・職場の中に相談できる人やキーパーソンを構築していける仕組みを作ること。
- ・アンケートの聞き取り調査で、うまくいっているケースの本人と企業、退職してしまったケースの本人と企業の両方に聞き合わせをすると、どこがうまくいった理由で、どこにうまくいかなかった理由があるのかがわかる。課題と成功する秘訣が見えてくる。

### 【議題3 再構築事業実施状況報告について】

- ・教員の研修では、家族への支援のあり方についても実施して欲しい。
- ・公立保育所では個別支援計画は保護者と共有しながら作成していくことを進めている。ただ、保護者がデリケートな部分もあるので、共通認識ができない場合には保育所内職員で共通理解をして進めているところはある。個別支援計画を就学先に繋ぐことも進めている。職員同士の勉強会も実施し、保護者と相談しながら一緒に計画を立てている。
- ・学校によって差はあるが、基本的には個別支援計画を保護者に見てもらい、共有している。長期休業に入る前には児童の成長過程や課題を見せて保護者と共有して進めていくことが大事。
- ・保護者は課題を抱えた子どもを持って悩む辛い親なんだということを理解してもらわないとモンスターペアレントというレッテルをはることになってしまう。怒りを持っている保護者とか悩んでいる保護者とか、段階があると思うので、そこをぜひ理解してもらえるような講座は必要かと思う。
- ・学校は区長マネジメントの発達障がいサポート事業があり、充実してサポートしてもらえると親も安心する。特に運動会などがこの支援で戸惑いもなく参加できていた。
- ・民生児童委員の研修会では講演内容が具体的で、見ただけではわかりにくい障がいだけど、支援をするとよくなることが実感してもらえたと受け止めている。大阪市が民生児童委員の研修会を実施したことに感謝している。
- ・厚生労働省が5年に1回実施している施設児童の実態調査では発達障がい（疑い含む）児童は、おおよそ25%という結果が出ている。本市も、約1000名の措置児童の内、251名で、ほぼ同じ割合であった。

### 【議題4 発達障がい者支援指針（仮称）について】

- ・関係者がそれぞれの分野で活動しているが、お互いに十分理解しあっていないことが結果として弊害となっている。中心に何を置くか、大きな課題であると思う。
- ・冒頭では基本理念を示していく必要がある。事務局が示すというよりは先生方の意見を頂き、大きな方向性、理念は最初から置くべきだと考えている。
- ・全体の構想を見たときも周りの理解というところは含まれているが、コミュニケーション支援、ソーシャルスキル支援というところがまだまだ弱いのかと思う。
- ・ペアレントメンターの事業で、考えを押し付けてしまうメンターもいるのでコーディネーターとしてアドバイザーについていていただけると、上手に教えてもらえる。
- ・思春期である中学校の方が問題が発生しやすくなっているが、実際は学校の取り組みが薄くなっている。しっかりサポートしてもらいたい。不登校への対策も充実してもらいたい。
- ・「若者自立支援ひきこもり連絡会」という関係局が集まっている会議がある。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに研修を実施し、発達障がいに取り組んでいくとか色々なアプローチが考えられる。

- ・ 思春期にたくさんの課題が出てくる。親支援講座のメニューでもそういう時期の色々な課題に対して取り組んでいきたい。

【議題5 その他について】

- ・ (26年度から大阪城天守閣をブルーライトアップすることになり、) 自閉症啓発デーでは多大なる尽力をしてもらい、大阪市の協力がなければ通天閣だけしかできなかったと思うので感謝している。